

2014 年 3 月 19 日

糸原重美(チームリーダー)が、第87回日本薬理学会年会(仙台)において、「スパイン形成と認知機能における RacGAP alpha-Chimaerin の役割」という演題で招待講演を行いました。

2014 年 1 月 20 日

「生殖腺刺激ホルモン放出抑制ホルモン(GnIH)による攻撃性の制御」に関する筒井研究室の研究結果が Nature Communications (オンライン版)に掲載されました。(2014.1.16)

T. Ubuka, S.Haraguchi, Y. Tobari, M. Narihiro, K. Ishikawa, T. Hayashi, N. Harada and K. Tsutsui(2014)

Hypothalamic inhibition of socio-sexual behaviour by increasing neuroestrogen synthesis.
Nature Communications 5, 3061 doi:10.1038/ncomms4061

内容:古くから雄の攻撃性は精巣で作られる男性ホルモン(アンドロゲン)に依存すると考えられていましたが、これまでの研究により、精巣から分泌された男性ホルモンは、脳に存在する女性ホルモン(エストロゲン)の合成酵素(アロマターゼ)の働きにより、女性ホルモンに変換されて、雄の攻撃性を制御することが示唆されてきました。本研究により、生殖腺刺激ホルモン放出抑制ホルモン(GnIH)は女性ホルモンを合成するニューロンに作用して、女性ホルモンの合成を著しく高めて雄の攻撃性を低下させることが明らかになりました。本研究成果は攻撃性の高い鳥類であるウズラを解析モデルにして得られましたが、今後の研究で人間にも同じ仕組みが存在することを明らかにすることで、人間の攻撃性の高まりを安定させる方法の開発が可能となり、社会における平和や秩序に貢献することが期待されます。

2013 年 8 月 1 日

筒井研究室 筒井和義(教授)が、第 17 回 International Congress on Comparative Endocrinology(2013 年 7 月 15 日～19 日、バルセロナ)において、Breakthrough in neuroendocrinology by discovering novel neuropeptides and neurosteroids という演題で Plenary Lecture を行い、Bargmann-Scharrer Award を受賞しました。

2013 年 7 月 9 日

合田研究室 新井理智君(修士 2 年)が、第一回低酸素研究会(2013 年 7 月 6 日, 東京)において、「非アルコール性脂肪性肝障害の発症機構における低酸素応答システムの病理生理学的意義の解明」という演題で発表を行い、YIA を受賞しました。

2013 年 6 月 24 日

合田研究室 新井理智君(修士 2 年)が、日本生化学会関東支部例会(2013 年 6 月 15 日,山梨)

において「非アルコール性脂肪性肝障害の発症機構における低酸素応答システムの病態生理学的意義の解明」という演題で発表を行い、ポスター賞を受賞しました。

2013 年 5 月 13 日

合田研究室 伊藤健太郎君(修士 2 年)が、International Aldosterone Forum Japan(2013 年 4 月 21 日, 品川)において、「Emergence of 3-adrenergic Receptor and Macrophage Infiltration in the Adrenal Glands Contributed to the Unfavorable Aldosterone Production in Heart Failure」の演題で口頭発表し、The 6th IAFJ Award 優秀賞を受賞しました。